

# ひと街しごと

平成16年(2004)12月 (年4回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南15条西18丁目

Tel(011)561-3597

編集：ひと街しごと刊行会

札幌市中央区北1条西17丁目

北海道不動産会館4階

街編集工房海内 Tel(011)623-6652

No. 10



## 春待つ気持ち持ちが 笑顔になつて、

笑顔になつて、

歴史はいつも未来へのみちしるべです。  
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが、  
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら、  
思い出カードを一枚一枚めくっていきましょ。



十月の初雪に始まって、遅い年には五月終雪という記録もあるほどの長い冬。でも道産子はちつともめげてはいません。やがて来る春に、時には自分の人生も重ねて、「なあ〜んもさあ〜」といつて笑顔をつくるのです。外は吹雪でも暖かいストーブを家族で囲めば、話題は春のことばかり。冬だからこそ生まれた団らんもあつたことでしよう。楽しみの少なかった時代には、宝物のような時間だったかもしれない。

は、宝物のような時間だったかもしれない。

思い出カード

生活編③







昭和35年6月、清華亭児童遊園地が開園したときの様子  
（札幌市写真ライブラリー提供）

清華亭の静かなたたずまい



## 偕楽園一帯

### 名園の名残り、明治のロマンが漂う 百年の変遷を見守る重要文化財・清華亭

格子状に区画割りされた街だから道を歩いていてもちよつと味気なさの残る札幌市。それだけに曲がりくねった道や遠くまで見渡せない街区にさしかかると何だかほっとすることがあります。その心温まるような場所がJR札幌駅から歩いて十分くらいのところに



JRの高架をはきんで  
こちら北側はまさにエアポケット

かつての札幌最初の都市公園は  
現在も周辺住民の憩いの場



## 大 都市のど真ん中、北区北七条西七丁目というきちんとした住居表示

があるのに、斜めの狭い通りに囲まれた変な窪地。木々も美しく整備され、北側には清華亭という国の重要文化財が建っています。

じつは、そのへこんだところはかつて豊平川の伏流水が湧き出す大きな池でした。ここから流れ出た水は北大構内を抜けて日本海に注いでいたのです。だからここにはサケの孵化場もありました。ここはいったい何……。

それは明治四年（一八七二）、札幌で最初に出来た都市公園、偕楽園がこの一帯だったのです。孵化場のほかに育種場、博物館なども併設されていました。偕楽園というと、梅で有名な水戸市の名園を思い浮かべますが、これも水戸に劣らぬすばらしい眺めだったことを物語るのが清華亭といえるでしょう。その清華亭は同十四年、明治天皇行幸の折に、貴賓接待所として建てられたものだからです。

清華亭は、外からは明治の気品と風格が漂うベイウィンドウが目を引きまします。中も自由に見学できますので、当時の和洋折衷の意匠に触れてみるのもよいでしょう。ついでながらこの建物の東側から北側にかけての狭い敷地に子供たちの遊び場があります。ここが最初にできたときの写真が上のものです。

明治三十年に民間に払い下げられて以来、清華亭は料亭や貸家になって荒れ放題という数奇な運命をたどることになります。その料亭というのがか



緑地の中央には  
豊平川の伏流水が湧いており  
そこから水神信仰も生まれた

つてススキノにあつて、夜の赤レンガの異名をとった「いく代」の前身。緑の窪地の隅にある井頭龍神の社は、初代女将らの水神信仰によつて建てられたもので、いまでも毎年八月にお祭りが行われているそうです。

枯れてしまった北大構内を流れていた川、サクシュコトニ川が復活したのは今年五月。藻岩山浄水場から引いた水がクラーク会館横から流れ出し、中央ローンを横切っています。

都会の真ん中のエアポケットのような場所に、明治の物語が息づいているというのがいいですね。世の中が進めば進むほど、その価値は高まっていくはずですよ。

※参考文献／豊平館・清華亭（さっぽろ文庫15）新・北区エピソード史（札幌市北区）



## 季語を入れる伝統俳句

俳句とはどういうものかを知っていたために、お手元の俳誌「葦牙」十月号を見ながらお話しします。

「葦牙」は創刊が大正十年二月。この号で通巻八百八十四号という大変歴史のあるものです。

### 〈温故知新〉から

しみじみと話して寒し十三夜

牛島藤六

我が情炎雪虫を逐ふ一途なり

長谷部虎杖子

雪虫の荒息つかひ掌に掬ふ

山岸巨狼

「葦牙」の創始者は牛島藤六という佐賀県の人です。十九歳のとき屯田兵として北海道に来て、北海道人は北海道に合った歌を作らなければいけないということで始めました。

十三夜というのは九月の満月のことで、かなり寒くなってきた季節です。わかりやすい句です。

牛島藤六を継いだのが長谷部虎杖子で、屯宮の神主をやった人です。

雪虫は本州では春の季語ですが、北海道では冬のもので。小さな命に情炎を燃やしているのでしょうか。

三代目は山岸巨狼。掌の雪虫を見ているんですね。小さな命に対する愛しみといいますが、自然を大切にしている様子です。

### 〈盆の入 正部家一夫〉から

そして現在の主宰が正部家一夫という小樽の人で、私より二つ年上で

す。

烈日の坂を妖しく黒揚羽  
十葉の花はびこり赦しをり

坂は小樽の富岡の坂でしょう。

十葉というのはドクダミのことです。はびこっているということは庭の手入れをしていないこと。奥さんを亡くして二十年くらいたつており、放つているということですね。

## 「自分の思い」を十七文字に

高橋抱石先生講演「俳句への誘い」から

十月三十日と十一月六日の二回にわたって行われた

印刷紙工主催の「本づくりおしゃべり会」

どちらもこれから自分だけの本を作りたいという人たちの熱心な聴講風景がみられました。

高橋抱石先生の講演「俳句への誘い」の要旨を再録しますので、参考にどうぞ。

冷奴絹も木綿も白替りに  
今年また徳ぶ誰彼盆の入り

自分で料理しているからできる句ですね。

新しく鬼籍に入った人がいる。その人をしみじみと想んでいるのです。

主宰の

句は日常  
の中での  
ほのぼの  
とした人  
間味をう  
たつたも  
のが多い  
ですね。



十七文字に季語を入れることが原則の伝統俳句ですが、葦牙もその伝統を受け継いでいます。黒揚羽、十葉、冷奴、盆の入りが季語です。

## 投句や句会で上達

〈白緋 高橋抱石〉から

じゃがいもの花咲き父の遠忌かな

## 自分の思いを十七文字に

高橋抱石先生講演「俳句への誘い」から

十月三十日と十一月六日の二回にわたって行われた

印刷紙工主催の「本づくりおしゃべり会」

どちらもこれから自分だけの本を作りたいという人たちの熱心な聴講風景がみられました。

高橋抱石先生の講演「俳句への誘い」の要旨を再録しますので、参考にどうぞ。

冷奴絹も木綿も白替りに  
今年また徳ぶ誰彼盆の入り

自分で料理しているからできる句ですね。

新しく鬼籍に入った人がいる。その人をしみじみと想んでいるのです。

主宰の

句は日常  
の中での  
ほのぼの  
とした人  
間味をう  
たつたも  
のが多い  
ですね。



日焼けが季語ですが、「会ひにゆく」と何の関係があるのかと、これも句会で意見が分かれました。

日焼けして仏の父母に会ひにゆく

日焼けが季語ですが、「会ひにゆく」と何の関係があるのかと、これも句会で意見が分かれました。

三年前に、若いときにかかった結核が再発して二百日間入院しました。もうダメだろうと思いましたが、生き延びたのです。おとし、去年と体力がなく、今年ようやく先祖の墓参りへ行けるようになりました。

墓一つづつの没日や夏かもめ

没日はいりひと読みます。岩内の妻の先祖の墓を参ったときのものです。墓の一つずつに夕日の反射があつて、それぞれに思いがある。まあまあいい句かなと思います。夏かもめで墓がどこにあるかもわかるでしょう。

凡庸も徳の一ぞ白緋

ちよつとわかりにくいでしょう、なぜ白緋なのか。凡は平凡の凡、庸は中庸の庸で、まあ目立たない人生も徳の一つではないかという処世観ですね。緋は夏の着物。幼い頃、うちではカイコを飼っておりまして、姉が糸を紡いで機織りをやっていた。私に緋の着物を作ってくれた。そういう時代があつて、たいしたこともできなかつたがこうして今があるところ



はまなすの丘海鳴りのあるばかり  
はまなすの丘とうとどこを考  
えますか。私の場合は石符なので、鳥の声やいろいろな草花などはすべて消して、はまなすと海鳴りのざあーつという音だけを際立たせています。余分なことは言わず、感情的なことは一切除いてあります。こういうのを叙景句といいます。

おのが声水に喜れゆく夏野かな

石符のバスの終点で降りて川沿いの堤防を歩いていくと、自然と歌を歌いたくなります。若いときの歌でも、童謡でも詩吟でもいいですね。自然と自分が一つになつている実感があります。

以上、いろいろな句があるということをお話してきました。自分の思い、社会に対する思想などをものに託してうたう句と、そういうことは度外視して純粹に大きな自然、小さな自然をうたう句があるということです。

上達への道は、まず入門書を読んでもみる、新聞などに投句してみる、カルチャー教室に入ってみることなどでしょう。三年やれば一通り覚え

ます。それから句会も大事です。いい句会に恵まれるといい友だち、いい先生にめぐり会える。私も句会を十くらい転々としました。妻を亡くして十四年たちますが、俳句をやっているおかげで慰められます。



# 本・づ・く・り 相談室

## Q 苦手なパソコン、 絶対便利というが...

生来、機械が苦手なパソコンなんてとても触れませんが、自分史を書くときには絶対便利とよく勧められます。どんな点が有利なのでしょう。

## A 何度も書き直しOK コピーで簡単な製本も

ワープロ機能だけでもぜひ早い機会に覚えてください。まず原稿を書くときに削除や追加など何回も書き直しが効きます。手書きですと原稿そのものが汚くなり、最後の清書にしても、一から書き直すとなると大変な手間です。ワープロですと、いわば書きあがったものが決定稿ということ。印刷会社でも持ち込まれたフロッピーをそのまま変換しますから、いわゆる誤植はないことに。ゲラも早くあがり

ますから、印刷期間の短縮につながります。さらに文章に自信のある方や、また書いたものを第三者に見てもらって添削済みのものなら、製本したい部数だけコピーして、自分で簡単に製本してもよいでしょう。百部単位で本格的に製本したいのなら、印刷会社にフロッピーを持ち込み、印刷・製本を依頼することです。このように発注する側で出来ることを済ませておけば、もちろん全体の制作費用もいくらかは安くなります。少ない予算、何人くらいの人に見てもらおうのか、施設への寄贈などを考えているのかなどを考慮に入れながら、発注の方法を工夫してもよいでしょう。

ここで

調べる

— 屯田兵関係

## 慣れぬ土地での 苦闘を肌で知る



せん。先祖が屯田兵として北海道へ渡ってきた人はもちろん、親戚や知人に関係者がいるときは、記述するときにある程度の知識が必要でしょう。屯田兵として入植した人の姓名や出身地はすべて記録が残っており、関連書物もたくさんありますが、その苦闘の生活を肌で感じるなら、やはり当時の建造物をたずねてみる事です。

北海道の歴史を語る上で屯田兵の役割を欠かすことはできません。

札幌市ですと、西区に琴似

屯田兵村兵屋跡(琴似二ノ六)が。また北区に新琴似屯田兵中隊本部(新琴似八ノ三)Ⅱ写真Ⅱがあります。琴似は明治八年、山鼻とともに主に東北、北陸から北海道最初の入植。新琴似は九州から明治二十年の入植です。それぞれ内部の生活の再現、資料のパネル展示などが興味をそそります。このほか札幌近くでは、江別市野幌に江別屯田資料館があります。こちらは中国、九州からの二百余戸がこの地域の礎となっています。

## 出版ニュース

句集 女坂

山岸 泰子



(B6判 132ページ)

空白を埋めるかのよう句会に参加したのが始まり。昨春まとめた第一句集です。平成六年以来の句を二年ごとに猫柳、鶏頭、芒原、女坂、浅春の五部に分けて構成。黒々と土あらはるる猫柳くれないの夕日鶏頭燃えた

たす  
こぼれては揺れては萩の女坂  
乳がん、長女の結婚、初孫の誕生など、ゆるくて長い女坂への感慨があります。

## 一蘭提の里程碑

鷺見 博和

「いつせんだい」とは聞いたことのない言葉。仏教で、仏

になる能力や素質をまったく持つていないものかを言うのだそうです。著者は道内各地で外科医として功労のあった人で七十七歳。ものみな死ねば仏になるのではない、自分はその一人だという認識で生きてきたという自分史。  
新たに書き起こしたものの、新聞などに投稿したもの、詩作、随筆などが二段組で。医師らしい深い思索が随所に。(制作は北海道医療新聞社)



(A5判 270ページ)

## 短信

## 新聞を活用する

十二月に入ると各紙が一斉に特集を組むのが「今年の重大ニュース」。国内外ともに、こんなことがあったんだなあと改めて一年を振り返る材料となります。

この特集ページを保存しておきましょう。いずれ年表作成が必要になったときに、ここから必要な出来事を拾っていくのです。年数が経過してから図書館へというのでは忙しいときには手間。

新聞活用でもう一つ。新しい年を契機にスクラップを始めませんか。何を切り抜くかはあなたのテーマ次第。すぐには役立たなくても、いつか日の目をみることでしよう。

■自分史セミナーの「出前」します 印刷紙工では三面でお知らせした「本づくりおしやべり会」のほかに、都合で来られない方やお仲間だけで話を聞きたいという人のために、本づくりセミナーの出前を行っております。三人以上のお集まり

で、会場をご用意いただければ、日時を相談の上、編集者と印刷担当がお伺いして、いろいろとアドバイスさせていただきます。

■記念誌づくりもお手伝い 企業や団体の節目の設立周年(二十周年、三十年...)にちなんだ記念誌づくりもお手伝いいたします。企画から承ります。■小紙をお送りします 小紙をご希望の方には、定期的に無料でお送りしております。印刷紙工までお申し込みを。